

Nitto

第153期
第2四半期のご報告
2017年4月1日～2017年9月30日

News Flash

Nitto ATP ファイナルズ ～ロンドン～



Nitto ATP FINALS™



©Red-Photographic.com

Nittoがタイトルスポンサーを務める「ATPファイナルズ」が11月にロンドン(イギリス)で開催されました。ATP ファイナルズは、男子プロテニスシーズンの最終戦で年間王者を決定する大会です。

Nittoのさまざまな分野においてトップを目指すという事業戦略と、世界中の一流選手がベストを尽くして戦う、男子プロテニスの最終戦の存在意義には共通点があると私たちは考えています。新たな提供価値を生み出すために、Nittoはこれからもビジネス領域を広げ、世界的な企業としての躍進を目指してまいります。



Nitto
ATP Finals
公式サイト



株主のみなさまにおかれましては、日ごろからのご理解とご支援を賜り、
厚く御礼申し上げます。

2017年度前半を終えて

主力のオプトロニクスにおいて、前年度から好調が続くディスプレイや半導体などのエレクトロニクス市場を中心に、お客様の要望に応えた付加価値の高い材料や製品を供給することができ、期初見通しを大きく上回る業績を上げることができました。インダストリアルテープにおいても、同様にエレクトロニクス市場の生産拡大に追随し、両面接着テープなどの需要に応え、収益を拡大させています。

スマートフォンやタブレットPC向け液晶用光学フィルムが引き続き好調であることに加え、下期にかけてもスマートフォン用有機EL (OLED) パネル向けの新たな製品の需要拡大が見込まれるため、想定為替レート(1米ドル=110円)を据え置く前提で、平成30年3月期通期連結累計期間の連結業績予想を上方修正しました。

さらなる事業拡大に向けて

NittoはInnovation for Customersをブランドスローガンに掲げ、新しい分野で事業ポートフォリオを拡大し、社会への価値提供を進めてきました。

テレビやスマートフォンの普及に伴い、ディスプレイは大きな進化を遂げます。今後もより美しくリアルな表現が求められ、8Kなど高精細化を実現するためには大容量の高速通信が必要となり、情報伝送の手法もさらなる進化が期待されています。

Nittoは慶應義塾大学理工学部の小池康博教授の助言のもと、次世代の高速大容量通信の実現に向け、

プラスチック光ケーブル事業(※1)へ参入し、8K以上の高精細時代に応えられる大容量高速通信を可能とする伝送ケーブルを開発・量産することで次世代に貢献してまいります。

また、核酸医薬分野での価値提供を目指して、2011年に米国でアビシア社(現日東電工アビシア社)を買収して以降、世界トップシェアを誇る核酸医薬製造サービスをお客様に提供しています。お客様の核酸医薬開発をさらに加速させるため、米国マサチューセッツ州にあるミルフォード製造拠点の能力を拡大しました(※2)。この設備投資によって、世界最大の核酸医薬原薬製造拠点としてのポジションを確固たるものにしていきます。

※1、※2：次ページ「TOPICS」参照

利益還元について

Nittoグループは、株主の皆さまへの安定的な利益還元を経営上最重要課題の一つとしています。配当金につきましては、グローバルでの製造、研究、開発に必要な設備投資をはじめ、財務状況、利益水準、配当性などを総合的に勘案し決定しています。この基本方針のもと、2017年度の年間配当は、前期より10円増額した年間160円を予定し、中間配当金は、5円増額して1株につき80円とすることを決定しました。

代表取締役 取締役社長
CEO・COO

高崎 秀雄



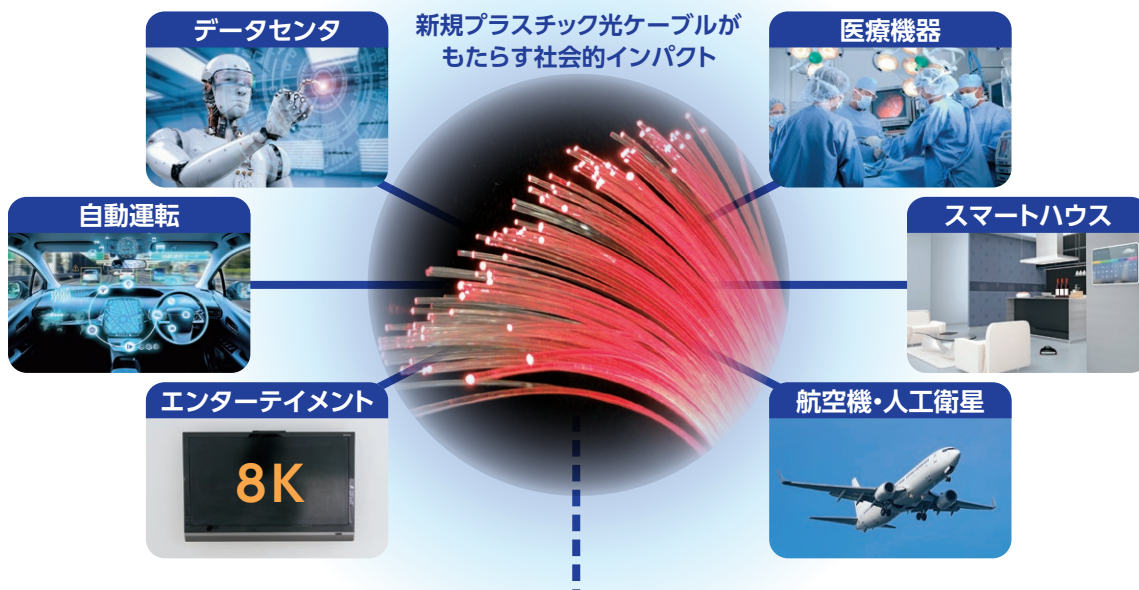
TOPICS 1 新規プラスチック光ケーブル事業へ参入

Nittoは慶應義塾大学とともに、8K以上の高精細時代に応えられる大容量高速通信を可能とする伝送ケーブルの開発・量産を実現し、プラスチック光ケーブル事業へ参入いたします。

現在の通信については無線伝送、電気伝送、光伝送が主な情報伝送手法として用いられていますが、2020年頃には高速大容量通信時代の到来とともに、より多くの情報に対応できる光伝送のニーズが拡大すると予測されています。



〈写真左から〉当社取締役 専務執行役員 梅原 俊志
当社代表取締役 取締役社長 高崎 秀雄
慶應義塾 常任理事 青山 藤詞郎様
慶應義塾大学 理工学部教授 小池 康博様



新規プラスチック光ケーブルの特徴

従来ケーブル

光ケーブル

高速
大容量

低
ノイズ

耐熱性

Nittoは、新材料を用いたプラスチック光ケーブルの開発を行うことで次世代に貢献すべく、これまで蓄積してきた光学フィルムに関する押し出し技術や幅広い産業へのアクセスを活用しながら2019年度の量産開始を目指します。新規プラスチック光ケーブルのフレキシビリティや有線ならではの高いセキュリティ性を活かすことで、住宅やオフィス、病院などの住空間、航空機や自動車などの輸送機器内、未来を彩るロボット、さらには宇宙空間などあらゆる場において大容量高速通信が可能となります。

Nittoはこの新規プラスチック光ケーブル開発を進めることで、世界中の人々をいつでも安心安全につなぐことができる情報通信社会の実現に貢献いたします。

TOPICS 2 米国で核酸医薬原薬の製造能力を増強

グループ会社である日東電工アビシア社(米国マサチューセッツ州)は、このたび米国マサチューセッツ州ミルフード製造拠点内に新しい設備を導入し、核酸医薬原薬の製造能力増強を行いました。これまで1.2molだった核酸医薬原薬の製造能力が3.0molとなり、世界最大の核酸医薬製造拠点となります。



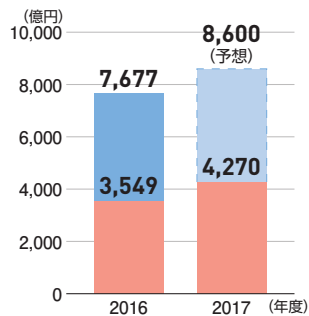
Nittoアビシア外観。
左側の建屋が今回増設されました。



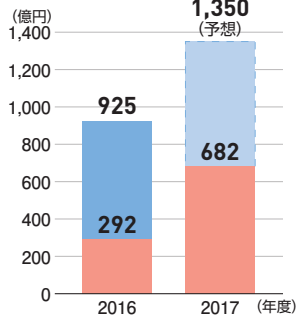
御来賓をお招きし設備完成セレモニーでのリボンカットの様子
〈写真右端〉当社代表取締役 取締役社長 高崎 秀雄

業績ハイライト

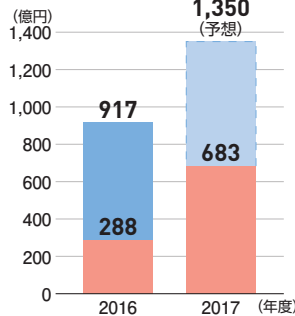
売上高



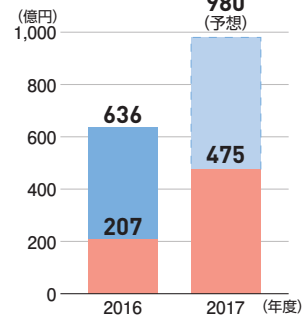
営業利益



税引前利益



当期利益



海外売上高比率

73.9%

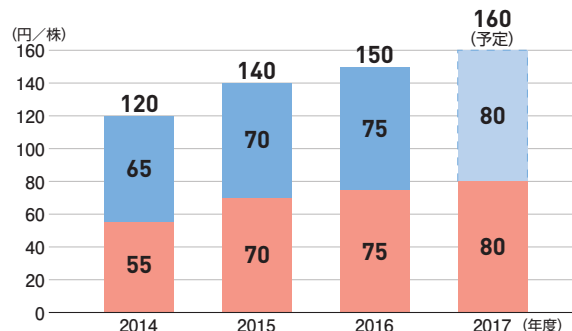
海外売上高 **3,156** 億円
国内売上高 **1,114** 億円

自己資本比率

73.7%

自己資本 **6,948** 億円
総資産 **9,431** 億円

1株あたり配当金



ポイント

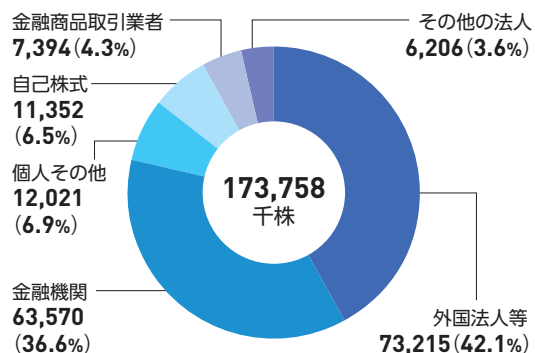
- 1 上半期は、主力のオプトロニクスにおける光学フィルムや、エレクトロニクス分野向けの両面接着テープなどが業績を牽引し、全体では増収増益となりました。
- 2 液晶用光学フィルムが好調に推移したのに加え、スマートフォン用有機EL (OLED) パネル向けの新たな製品の需要拡大も見込まれるため、平成30年3月期通期の連結業績予想を上方修正しました。

株式の状況 (2017年9月30日現在)

発行済株式の総数 173,758千株
株主数 26,738名

所有者別分布状況

(単位: 千株)



株主メモ

証券コード 6988 (業種: 化学)
事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
剰余金の配当受領株主確定日 3月31日 (期末配当)、9月30日 (中間配当)
定時株主総会 6月
単元株式数 100株
上場金融商品取引所 東京証券取引所
株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
連絡先 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
電話: 0120-094-777 (通話料無料)

※株式に関するお手続きについては、当社ホームページをご覧ください。

<https://www.nitto.com/jp/ja/ir/stock/procedure/>

Nitto

日東電工株式会社 〒530-0011 大阪市北区大深町4番20号 グランフロント大阪 タワーA 33階

UD
FONT
by MORISAWA